第 2016-26 号

# 恵みと真理のニュース

2016 年 6 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

## ［証］　神様が私の妻を変えてくださって、私が練達の過程をよく通して完全に主を信頼し愛するようにしてくださいました

私は小学校の頃勉強のためチュウナンのタンジンからソウルに来てその時から教会に通いました。親は祭祀をして家のあちこち見守りを貼るくらい偶像崇拝に熱心にして私が教会に通うのを嫌がりました。しかし、私はミッション・スクールに進学して毎朝チャペルの時間に賛美し礼拝をするのが好きでした。ある時にはおろかな行動で教会に行く代わりに友達とけんかをして退学しそう事もありましたが、神様は最後まで私を掴んでくださいました。
信仰が育ちながら私は親の救いのため神様に熱心に祈りました。家の大人がなくなった時神様の恵みと摂理でキリスト教式で葬式を終えてから親も親戚から感動を受けイエス様を信じるようになりました。親は今、元老の長老と勧士になって教会を支えています。
イエス様を信じなかった妻と結婚をして私は信仰生活に多くの苦難を経験しました。妻の家族は仏教の宗団を作るほど偶像崇拝をする家庭で特に義母が酷く仏教を信じました。そんな環境で育った妻は私が教会に行くのをとても嫌がって様々な理由を作って教会に行かないようにしました。そうするうちにある日はアンヤンのビサン同に引越しをしました。隣の家に住む恵と真理教会に通う区域長が荷物運ぶことを助けてくださり、私に区域礼拝を参席するのを勧めました。礼拝に参席して初めは手を叩いて賛美し声高く祈りをするのがなれなかったですがすぐ聖霊に満たされ恵まれる礼拝の雰囲気が良くて恵と真理教会の聖徒になりました。
私は会社の業務がつまらなくて会社をやめてしばらく失業者で過ごしながら区域長をついて熱心に礼拝に参席し伝道もしました。すると妻の迫害が酷くなりました。“離婚までしようとしました。”私は遅い時間一人で公園で静かに祈り賛美して痛い心を主に叫びました。当時、一番うらやましいのは区域長のかばんを持って教会に行く妻の旦那でした。私の妻も真実に主を支え私のため祈りをしたら私の職場の道も開くようでした。それで、もっと切につもの救いのため祈りました。
ある日は仕方なく主日に引越しをして新しい家に荷物を置いて5時礼拝に参席のため教会に行く準備をするどころ妻が荷物の整理を全部しなければならないとし、行くのを防ぎました。妻とけんかをしたくないから、その日は妻の話に従って水曜祈り会には参席するため急ぎで職場を終えてソウルからタクシーを乗って礼拝に参席しました。その日、当会長の牧師の説教を聴き大きい恵を受け教区長の祈りも受けました。
帰る道に中央線を越えてジグザグ乱暴運転する車に引かれる事故が起こりました。事故の瞬間、私は死と思って気絶しました。しばらくして目覚めてみると、私は道路に横たわっていて人たちがざわついて"ここに人が死んだ!"という音が聞こえました。 ところが奇妙にも私の体に痛いところが一つもないし、私の靴や所持品だけがあちこちに散らばっていました。 救急車で病院の応急室に運ばれていろんな検査を受けたが、膝に小さい傷たけでほかに何の異常がなかったです。
一方、私が事故が起こった時間に家では子供が酷いせきで苦しい中で泣きながら神様に助けてくださいと祈りをして妻も子供の手を掴んで祈りました。そして、瞬間せきが止まる恵を体験して私が家に帰って来る時間が過ぎても来なくて心肺している時でした。そんな状況でまず私の連絡を受けて区域長の夫婦が私の家に来て事故の事実を知らせて妻を安心させて病院に連れて来ました。応急室に駆けつけた妻は、驚いた胸を押さえて、"あなたが死ぬとやもめになって子供とともに、どう生きるか"という考えました。 現場検証を行っていた警察官が言うと　"私は、イエス様を信じる人ではないが、このような大きな事故に遭っていながらもこんなに生きているのは奇跡です。 神様があなたを救ってくださったですね!"としました。 加害者である青年は飲酒運転して、1年前も同じ事故を起こし、執行猶予期間であるうえ、今回は中央線まで侵犯した事故なので、その罪が重いでした。 しかし、私を保護してくださった神様の恵があまりにも感謝し、またその青年の家庭環境が難しく、母が切に許しを請うため、人身拘束を免れるように手伝ってくれました。
このような驚くことを経験しながら、妻がイエス様を受け入れました。 その間、妻の救いの求め、十一献金を妻の名前で神様に差し上げるのうちに気の利いた妻に発覚され、大きな被害を受けた時もありましたが,もう、妻が先に十一献金を夫婦共同の名前で神様に差し上げると提案するから、私は大喜びし、神に感謝しました。
私は今年で30年目、主日7部の礼拝の聖歌隊で奉仕をして、数年前から、主日の朝、2部の礼拝の時に準備賛美歌を導いています。 ところが、過去の2014年のある主日にいつものように賛美の導きを終えましたが、急に喉が完全に嗄れて話せない状態になりました。診察の結果　、喉頭炎が原因となった声帯結節に症状がとても臭くて半月ほど治療を受けなければならず、もし治らなければ、大きな病院で手術を受けなければならないと言いました。 そして手術を受けてもこれからは以前と同じ声を出すことは困難だとしました。
私は大きく落胆しました。言葉をたくさんしなければならない職業であり、また教会で賛美の奉仕をしているのに、首が完全に声が嗄れて何の音を出すことが出来ないから人を会うことさえも怖くなりました。
私は事務室のドアを閉めて泣きながら神様に叫ぶ祈りました。エリヤの祈りに奇跡的で答えてくださった神様、交通事項の危機の時にも私を守ってくださった神様を考え切に祈りました。すると、神様は祈ってくださる恵が望みました。毎日声が回復され二ヶ月後には手術をしなくて正常になって癒されました。今は大きく賛美し祈りもできます。第二の人生を生きるような喜びも与えてくださいました。
私は何より妻に信仰を与えて下さり、の実家を福音化させてくださった神様の恵みに感謝を捧げます。集中治療室に入院していた義母は私を呼んで賛美歌186番(イエスの血)を歌ってくれるとして涙を流しながら歌ったら義母は喜んでました。何日後義母は天国に召されました。神様は息子にも大きい恵と愛を与えてくださいます。息子は軍隊を終えてアメリカで留学生達をする中でアメリカ全体で留学生の対象にする60名を先発をするアメリカ軍のプログラムに合格してアメリカ市民権を受け現在ようさんアメリカ軍病院で働いています。
全ての祈りに答えてくださり、 万事が益となるように共に働いてくださる神様を賛美します。賛美と祈りの中でいつも礼拝する福ある家庭に変えてくださった神様の恵みに感謝します。神様に全ての栄光を捧げ、主がくださった人生の最後まで忠誠する“という御言葉に従順するのを決心します。

## ［信仰コラム］　二種類の洗礼

**"...「この人たちがわたしたちと同じように聖霊を受けたからには、彼らに水でバプテスマを授けるのを、だれがこばみ得ようか」。こう言って、ペテロはその人々に命じて、イエス.キリストの名によってバプテスマを受けさせた。..."（使徒言行録１０：４４～４８）**

蘇られたイエス様が昇天なさる前に弟子達に洗礼に関して言い付けたお言葉に水の洗礼と聖霊洗礼この二種類の洗礼が言及されました。（マタイによる福音書 28：18～20）（使徒言行録 1：4、5）キリスト人はこの二種類の洗礼を全て受けるべきです。既に二種類の洗礼を受けた聖徒も洗礼の神霊な意味を新たにそして、より深く認識する必要があります。
第一、水の洗礼に関して調べてみましょう。
聖書の様々な所に記録された洗礼を受ける場面を見てみると体を水に浸けるようにする方式であったのが明らかであります。洗礼は洗礼を受ける者が水から出る時、彼の罪悪がこの世に支配されずに救われたことを公に宣言する神霊な意味があります。罪人である自分がキリストの中で死んだという事実と共にキリストの中で正しくなり、新たな命を得て蘇ったことを公表する聖なる儀式であります。誰でもイエスキリストを信じる者は水の洗礼を受けることができます。洗礼を受けることが救いを得る条件ではなく、救いを受けた人が洗礼を受けるのです。洗礼は私達の主が言い付けたことで洗礼儀式の真実で深い意味を考える時に洗礼を受けるのは素晴らしい喜びで特権であります。
第二、聖霊洗礼に関して調べてみましょう。
教会と聖徒達の霊的な貧窮と能力の欠乏は聖霊洗礼に関する無知と無関心にその原因があります。聖霊洗礼は神様が聖徒達に与えてくださる驚くべきな贈り物です。聖霊を受けることはとても必要で重大なことなので"あなたは聖霊を受けましたか？"という質問に対して正確に理解して答えなければなりません。いくつかの聖書の節に基づいて"全てのキリスト人は聖霊で洗礼を受けました。従って、別に聖霊洗礼を受けなければならないということは正しくありません。"と主張するとしたらこれは、聖霊洗礼について正しい知識を持っていないことを表すことであります。使徒言行録の 2 章を見てみると弟子達がイエス様が言い付けたお言葉に従ってエルサレムのある家に集まり心を一つにしてお祈りに専念して十日が絶った五旬節に彼らが全て洗礼で充満になる体験をしました。従って、"聖霊受け"や"聖霊洗礼"と表現される聖霊の体験は二種類であることを分かります。聖霊でキリストと連合するようになる洗礼があります。悔い改めてイエスキリストを迎接することです。そして、イエスキリストを信じて聖霊で生まれ変わった者が聖霊充満を受ける体験としての聖霊洗礼があります。五旬節の日に聖霊充満を受けた弟子達は能力を受けて大胆にイエス様による罪の許しと救いを人々に述べ伝えました。このように聖霊充満を受けさせる聖霊洗礼を"聖霊受け"とも言います。なので、聖霊洗礼、聖霊の充満、聖霊受けを同義語で使っています。ところが、初めて聖霊充満を体験する聖霊洗礼はただ一回であるが聖霊充満は一生の間に再び体験することができます。従って、信者達は聖霊充満を意味する聖霊洗礼を受けるために渇望して求めるべきであり、聖霊充満を再び体験するようにすべきです。聖霊で充満であれば礼拝を捧げることを好むようになり、キリストを表して述べ伝えることに励むようになり、主の事のために献身することが楽しみになります。聖霊の権能が臨みこのような事をするようになります。
水の洗礼はイエスキリストを信仰で自分の魂に起きた内的な変化をそして、神様との関係を水の洗礼儀式を通じて公表する行為であります。罪のぬぐいを受けたこととこの世で分離されて出たこと、古き人は葬り新たな人に生まれ変わったことをより深く認識するようにするのです。聖霊洗礼は生まれ変わった人に与えてくださった光栄の使命であるキリストの証人としての使命を良く遂行するように能力を被らせるのです。皆さんは、水の洗礼と聖霊洗礼を受けた信者だけではなく持続的に聖霊充満な生活をしてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

# 私があなたの涙を見た

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は泣きながら生まれて一生の間に数えなしに涙を流しながら生きて死ぬに至っては多くの人々の目に涙を流すようにします。 自ずから出る涙の分泌量は一般的に子供が大人より、女性が男性より多いと言います。 しかし涙を弱いの象徴のように思うことは過ちです。 聖書に見れば聖君タビテ、予言者エレミヤ、使徒パウロ皆が涙が多い人でした。 だけでなくイエス様が涙を流した場面が聖書に何回も記録されています。 涙を流しながら泣くことは人間の特性の中の一つです。 泣くことは恥かしい事ではないです。 むしろ涙がないのが恥かしいことです。
涙は信仰生活の徳目の中の一つです。 実際に涙が多い聖徒の心霊に恵みが臨んで涙の多い聖徒の集まる教会は復興されます。 それでもともすれば涙を流す人になった方が良いという意味ではないです。 何の理由で涙を流すかと言うことが重要です。涙は人の心を動かします。 涙は訴える力を持ちます。 神様も私たちの涙を見て憐れんで思って、助けの手助けを突き出してくださるという事実が聖書に啓示されています。 今日は聖書を通じて神様が見る涙、神様を向けて訴える力を持った涙に対して調べます。

## 第一は、悔い改めによって流す涙です。

人は誰も神様の前で罪人です。 しかしこんな言葉をきくことを不便とか不快に思う人々がいます。 そして故意に無視するとかあるいは罪の思いは宗教家が入れ込んだ観念に過ぎないだけだと主張したりします。 しかし “義人はいない、ひとりもいない。”( ローマ人への手紙 3:10). “すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており”( ローマ人への手紙 3:23)と聖書に宣言されたお言葉は不正されることができないです。 これを否定しようとすることはまるで目をつぶって太陽はないと主張することに違いないです。 自分は罪人ではないと主張して、神様の審判や地獄のようなものは妄想に過ぎないと叫ぶとか固く信じると言っても審判と地獄の刑罰をまぬかれることができないです。 人に最大の幸運の中に一つは自分は罪人で人間の方途では罪を解決するあてがないということを自認めるのです。そして福音をきいてイエス様を自分の救世主に信じて迎接するのです。 これを救い得る悔い改めと言います。 こんな悔い改めをする時に流す涙はまことに価値あって有益な涙です。 私たちの罪をあがないしたイエス様を迎接することと関わる悔い改めの涙だけではなく聖徒は一生を暮しながら神様の思った通りに行うことができずに神様が嬉しくできないことによる悔い改めの涙を流すようになります。 これは救いに関わったのではないです。 救いをもらった人らしく行うことができなかった事でよったのです。

こんな悔い改めは一生の間に続きます。 そしてこんな悔い改めによって流す涙があります。 使徒パウロも歎息するのを “わたしの内に、すなわち、わたしの肉の内には、善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。なぜなら、善をしようとする意志は、自分にあるが、それをする力がないからである。 すなわち、わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行っている。”( ローマ人への手紙 7:18,19)と言いました。 しかしこんな事によって悲しくて痛くて悔い改めの涙を流せば神様の憐れみを受けるようになります。 “悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。”(マタイによる福音書, 5:4)というお言葉は悔い改めの涙を流す者に向けてくださるお言葉です。

## 二番目は、病苦と患難にあう時神様に切に求めながら流す涙です。

神様は涙を流しながら叫ぶ祈祷に深い関心を持ちます。 こんな涙は切実な心から始まるからです。 ヒスギヤが 39 歳に王になってから 14 年目になる日に体が病みました。 予言者イザヤが彼に来てこんなに宣布しました。 “エホバがこのようにおっしゃるのを あなたの家を整理しなさい。これからお前は死ぬはずで回復することができないだろう。’ としました。” ヒスギや王は彼の顔を壁で向けて “エホバで求めるから私が主の前で真実と専心で行って主の目前で善良に行ったことを思い出してください。” と切に求めて甚だしく泣きわめきました。 神様はヒスギや王が切に求めながら泣くことを見ました。 予言者イザヤをまたヒスギや王に送って “私があなたの祈祷を聴いたあなたの涙を見た。” と伝えさせました。 ヒスギや王が泣きながら祈った結果で彼が求めたこと以上の回答を受けるようになりました。 15 年の生命を延長とアッスル王の手で救い出されることそして神様が城邑を保護してくださるという約束です。 涙を流しながら祈るということはその心霊が低くなって謙遜な状態になったことを現わします。 神様を向けて低くなって謙遜な心になって涙を流す者に救いが臨んで治療が臨みます。

## 三番目は、福音を伝える信仰が弱い者の面倒を見ながら流す涙があります。

イエス様を信じる人は逼迫にあうことから悲しくて泣かないです。 返って逼迫する人を見る時に切なくて可哀想で涙を流すようになります。 神様はこのような涙を見ます。 使徒パウロはピリピ教会に手紙するのを “わたしがそう言うのは、キリストの十字架に敵対して歩いている者が多いからである。わたしは、彼らのことをしばしばあなたがたに話したが、今また涙を流して語る。”(ピリピ人への手紙, 3:18) としました。 教会のリーダーは信仰が弱い者の信仰を堅固にさせるために労力しながら涙を流すようになります。 神様がこのような涙を見ます。 他人に対する憐愍と憐れみの涙を神様が見ます。 今日の産業化時代は人々に物質的な豊饒を持って来てくれる一方に精神的な荒廃を持って来ました。 熾烈な競争と仕付けの不在はますます人情がないできびしい社会を作って行っています。 隣りに対する憐れみの涙がない社会の索莫たる所はないです。

他人をイエス様の位に導くためにそしてか弱い信者を面倒を見るために労力して祈りながら流す涙はまことに貴い涙です。 神様はこのような聖徒の涙を見ます。

## 四番目は、神様の愛と恵みに感激して流す涙があります。

イエス様を信じるようになれば涙がなかった人も涙が多くなるようになります。 教会堂に入って来て礼拝さえ差し上げればなぜなのか涙が流れて片付けることができないからどうしてそうなのかと質問する聖徒があります。 このような涙は肉体的な刺激や精神的な衝撃から出るのではなく神様の恵みと愛に彼の霊が喜んで感動して涙が流れるようになるのです。 人が流す涙の中なによりも貴い涙は主イエス様の中に現われた神様の愛に感動して流す涙です。 涙の価値とはその人の世の中の身分と地位に係らないです。 世の中で卑賤に思う女性一人が流した涙に関する美しくて感動的なお話が ルカによる福音書 7 章に記録されています。
バリサイ人のシモンがイエス様を食事に招待しました。 イエス様がシモンの家に入って食卓を向けて座りました。 その時女性一人が登場しました。 この女人は堕落した生活によって罪責感に押されて住んで行ってイエス様のお言葉を通じて感動を受けて所望を持つようになりました。 この女人はイエス様がバリサイ人のシモンの家へいらっしゃったという消息をきいて香油の瓶を持ってその家に行きました。 この女人は罪人のために世の中へいらっしゃって福音を伝えようとして汚されたイエス様の足を見たら涙が溢れました。 その涙がイエス様の足を濡らしました。 女人はひざまずいて自分の髪の毛でイエス様の足を洗ってその足に口付けて香油を注ぎました。 イエス様はその人の身分がどうでも罪の赦しを受けた恵みに感激して涙を流しながら献身する人によって光栄を受けます。 罪の赦しを受けた喜びと感激の大きさのくらい礼拝と伝道と奉仕に力をつくすようになります。 イエス様は女人におっしゃるのを “あなたの罪の赦しを受けたと。” なさって “あなたの信仰があなたを救いしたから平安に行きなさい。” としました。 女人の信仰が正しかったということを確認してくださったのです。 そして女人の涙と献身的な行為が皆が罪の赦しを受けた喜びと感激から出たのであるを証言なさいました。

私たちが神様に感謝して感謝の涙が不毛ではない時に私たち心霊の中に救いの確証と平安がもっとあふれるようになります。 神様は聖徒が神様の恵みと愛に感激して流す涙を見ます。 悔い改めながら流す涙、病苦と患難にあう時に神様に切に求めながら流す涙、福音を伝えて信仰が弱い者の面倒を見ながら流す涙、神様の愛と恵みに感激して流す涙を神様が見ます。 皆さんは “私があなたの懇求をきいたしあなたの涙を見た。” “私があなたの感謝をきいたしあなたの涙を見た。” と告げる神様のお言葉を聞く聖徒になるように願いします。